

授業科目名：  教職実践演習（中等）	教員の免許状取得のための  必修科目	単位数：  2単位	担当教員名：  高木由起子・森直樹・丸本茂樹・ 手島純・大和洋子・渋谷聡・秋澤一輝  担当形態：クラス分け・オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	中学校・高等学校教諭としての勤務経験を持つ教員が、教育現場における課題を中心に据え、課題について教員・学生がともに検討を行い、その解決を図るためにグループディスカッションや模擬授業、ロールプレイングを行い、その成果等を討議・発表する。		
科 目	教育実践に関する科目（中学校・高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職実践演習		
「学位授与の方針」との関係  該当なし			
授業のテーマ及び到達目標  【授業のテーマ】○教職課程の学びの軌跡の集大成  【到達目標】 ○教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒もから学び、共に成長しようとする姿勢を身につける。また、高い倫理観と規範意識の向上を図り、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができるようにする。 ○教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができるようにする。また、組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行し、保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができるようにする。 ○生徒の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行なうことができるようにする。また、生徒との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行なうことができるようにする。 ○教科の内容の理解をはじめ、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）や板書、話し方、表情など授業を行なう上での基本的な表現力を身につけさせる。また、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができるようにする。			
授業の概要  本科目は教職課程以外の科目の履修やさまざまな活動を通じて学生が身につけた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するものであり、「学びの軌跡の集大成」として位置付けるものである。学生が将来教職に就く上での課題を認識し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い教師力の向上と定着を図る。そのために、教員として求められる下記の4つの事項を含め、社会人としての基礎・基本から学級づくりや授業のポイント、保護者対応の仕方などについて資料やアクティブ・ラーニングの手法も用いて実施し学びを深める。 (1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 (2) 社会性や対人関係能力に関する事項 (3) 生徒理解や学級経営等に関する事項 (4) 教科内容や指導力等に関する事項			
授業計画  第1回：「教職実践演習が目指すもの」と授業計画を理解する。また、同じ教員を目指す仲間と共に意見交換を行い教師としての資質・能力を高める。（高木・森・丸本） 第2回：教育実習終了による成果と課題についてグループディスカッションや講義を通して確認し、自覚を深める。（高木・森・丸本） 第3回：最近の教育課題について考える。（教育に関わる様々な事に目を向けられるようにする。）（高木・森・丸本） 第4回：教職の意義と学校教育の役割、新しい学習指導要領が目指すものについて、教育職員の身分、職務・服務義務と法的根拠を学ぶ。（高木・森・丸本） 第5回：これからの教員に求められる資質・能力についてグループディスカッションを通して確認するとともに中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質向上に向けて」や「令和の日本型学校教育の構築を目指して」の内容を把握する。（高木・森・丸本） 第6回：学校の組織と運営、学級経営・授業づくりについて（○学校教育目標・生徒が主体的に活動する学級経営・教育課程の編成について学ぶ。○学級経営案の書き方、学級通信の書き方について）（高木・森・丸本） 第7回：学級担任の保護会でのメッセージ、保護者会の持ち方、保護者・地域の方との対応について（高木・森・丸本） 第8回：学級づくりの構想について（○どのような学級をつくるのか、教師と生徒の人間関係、学級づくりのアイデア、学級づくりをするに当たっての不安と課題）（高木・森・丸本） 第9回：教材開発の工夫や、学習形態、指導と評価等に留意した学習指導案の作成を通じて、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身につけているか確認する。更に学び方の工夫として、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの手法）の意義や方法を体験し、指導力の向上を図る。（手島・大和・渋谷・秋澤） 第10回：学習指導案の作成（OGIGAスクール構想に伴い、ICTの活用が各教科指導に求められている。これらの内容を、学習指導に活かせるように工夫する。）（手島・大和・渋谷・秋澤） 第11回：模擬授業の展開と学生間の相互評価を実施し、課題を共有する。（手島・大和・渋谷・秋澤） 第12回：生徒指導について（○生徒指導についての理解と対応、○ロールプレイングを通して、教育現場を巡る様々な課題への対応力を修得しているか確認する。（保護者からの苦情相談、生徒からからの悩み相談。））（高木・森・丸本） 第13回：学校の危機管理上の課題（○リスクマネジメント、クライシスマネジメントについて、○危機管理演習（演習により対応力、実践力を身に付ける。））（高木・森・丸本） 第14回：理想の教師像と今日の自分、これからの自分、教師力について（○尊敬できる先生とできない先生、その違いから教師力とは何かを考える。）（高木・森・丸本） 第15回：「魅力ある教師とは」について考え、自分はどうのような教師を目指すかについてまとめる。（高木・森・丸本）			
スクーリングでの学修  主に、1回～15回の内容を含む。			
テキスト  教職実践演習用冊子			
参考書・参考資料等  田中 洋一『教師のためのスタートブック 中・高等学校版』 第一法規 ISBN978-4-474-05538-4			
学生に対する評価  スクーリング評価・科目修得試験、提出物などを加味して総合的に評価する。			